522 67Ga-DAS-Df-Fibrinogenによる血栓イメージング。

山本和高，千田道雄，藤田　透，林　信成，小出治敏，
棚田修二，米倉義晴，鳥塚莞爾　（京大　放核）
加藤　洋，伊藤秀臣，池窪勝治（神戸中央市民病院）

血栓イメージング製剤として新しく開発された^{67}Ga DAS-DF-Fibrinogen(67Ga-Fib)は，標識後もFibrinogenの凝固能を70％以上も保持しており，動物実験では極めて良好な血栓／血液　比が得られている。

健常者では，時間と共に血中放射活性の減少，緩徐な肝臓への集積が認められ，脾臓，骨髄，腎臓，腸管にも放射活性の増加がみられた。血中クリアランスの$T_{1/2}$は26～30時間とかなり遅く，尿中排泄率も72時間後までで28％と比較的少量であった。RI Venography で深部静脈血栓症と診断された４例，超音波検査で左房内血栓が疑われた３例を対象とした。通常^{67}Ga-Fib 2 mCiを静注し，72時間後まで経時的にに撮像した。７例中４例で，48時間後にhot spotが認められ，72時間後ではより一層明瞭になった。72時間後でも異常集積のみられなかった３例はいずれも発症から１年以上経過した陳旧性の症例であった。

^{67}Ga-Fibは，体内からのクリアランスが遅いが，比較的新鮮で，活動的な静脈血栓のイメージングに適した放射性医薬品であると考えられた。

523 頭頸部ＲＮ－アンギオグラフィーの経験

梅原　功，桑原雄二，奥山武雄（東医歯大　医放）
中元和也（亀田総病　画診セ）
鈴木　均（国立国府台病　放）

近年DSA の発達により、ラジオアイソトープを使用したアンギオグラフィー(RN-AG) の適応は狭められた感があるが、RN-AG はpool像の評価に優れているという特徴を有し簡便に施行できる検査法である。血管腫はその特異的血流動態から、RN-AG の良い適応疾患であるが、その好発部位の一つである頭頸部において、血管腫を中心とした95例にTc-99m-HSA（または -RBC）による３-phase RN-AGを経験したので報告する。

臨床診断の内訳は血管腫69、顎骨腫瘍11、下顎癌 6、その他 9である。３-phaseすなわちearly flow（動脈相）、early pool(5～10分後）、delayed pool (50～120 分後）の集積の有無から診断を行った。臨床的に血管腫とされた69例のうち、58例がdelayed pool(+)により血管腫と診断され、さらにearly flow(-) の海綿状血管腫37例、early flow(+) のAVM 合併あるいは、毛細管性または混合性血管腫21例の２群に大別された。海綿状血管腫と同じpattern を呈したものに悪性リンパ腫、舌根甲状腺があり鑑別診断上注目に値する。また、動脈瘤様骨嚢腫、骨肉腫の症例で血流動態の面から興味ある所見が得られたので合わせて報告する。

524 ＲＮＶにおける上または下大静脈系閉塞時の肝のHot Spot について

真下正美，鈴木健之，宮前達也（埼玉医大　放）
村松俊裕（同　２内）

上大静脈系閉塞80例，下大静脈系閉塞95例のうち肝にHot Spot を認めた９症例（上大静脈系のみ閉塞５例，下大静脈系のみ閉塞３例，上・下大静脈系の同時閉塞１例）について，それぞれの閉塞部位，肝への側副血行路，Hot Spot の位置などを検討した。

まず上大静脈系では，閉塞部位は５例とも両側腕頭または鎖骨下静脈から上大静脈までの閉塞で，肝への側副血行路は内胸静脈から臍旁静脈を経て門脈枝に流入する経路，また肝のHot Spotは中区域が３例，方形葉が３例（１例両方）に認められた。次に下大静脈系では，閉塞部位は下大静脈から総腸骨静脈までの閉塞１例と総腸骨静脈から大腿静脈までの閉塞２例で，肝への側副血行路の描画は３例とも明らかではないが，Hot Spot が全例方形葉に認められることより，浅または下腹壁静脈から臍旁静脈を経て門脈枝に流入する経路が推察された。また上・下大静脈系同時閉塞の１例は，上は右内胸静脈からの経路で，下は肝のHot Spot が広範囲の為，臍旁静脈からの経路以外に，下直腸静脈から下腸間膜静脈を経て門脈本幹に流入する経路も示唆された。

525 上大静脈症候群と側副血行路の検出

平野富男、井沢豊春、手島建夫、蝦名昭男、
今野　淳（東北大抗研　内科）

RI venography が上大静脈症候群(SVC) の診断及び治療効果の判定に有用であるか否かを検討した。

被検者を以下の５群に分けた。Ⅰ群；正常例(n=4)、Ⅱ群；臨床的にSVC を合併していない肺癌例(n=76)、Ⅲ群；臨床的にSVC を合併している肺癌例(n=9)、Ⅳ群；炎症性肺疾患又は良性肺腫瘍例(n=11)、Ⅴ群；縦隔腫瘍例(n=9)。TC-99m MMA を前腕より静注し、γ-cameraを上縦隔に位置させ、dataをcomputerに収録し解析した。

① RI venography上、Ⅰ群とⅣ群では全例とも腋窩、鎖骨下、腕頭、上大静脈、右心の順にsmoothに描出された。Ⅱ群で８例、Ⅲ群で全例、Ⅴ群で３例に側副路が描出された。腋窩静脈に放射能が出現してから肺野に到達するまでの時間は、Ⅲ群では14秒台であるが他の群は７、８秒前後であった。②血流肺scan上、Ⅱ群でⅠ例、Ⅲ群で４例、Ⅴ群で２例に側副路の一部にhot spotが観察された。③ SVCを合併した８例で治療効果判定の為繰り返しRI venography を施行し２例で改善を認めた。さらに例数を増やし検討中である。

RI venography は簡便であり被検者への負担が少なく、SVC の診断及び治療効果の判定に有用である。

Presented by Medical*Online